OMU Students 海外留学レポート

氏名　　對馬　碧人
所属　　商学部　商学科
学年　　２年
留学先　　マッコーリー大学
留学期間　　2023/8/14~2024/2/3

留学レポート Study Abroad Report

私は昨年 8 月から今年の 2 月にかけての約半年間オーストラリアのシドニーにあるマッコーリー大学に留学していました。シドニーという都市は他のオーストラリアの都市に比べるとかなり大きな都市で町の中心街には CBD と呼ばれる大きなビルが立ち並ぶビジネス地区があります。しかし私の留学先であるマッコーリー大学は町の中心部から電車で 1 時間ほどの郊外に位置し、自然と都市がほどよいバランスで融合した学習にうってつけな素敵な場所でした。このレポートでは留学を通じて私が得た体験について述べていきたいと思います。

〔留学に至るきっかけ〕

私は幼少期の頃から海外に強いあこがれがあり、海外にロケにいくようなテレビ番組を食い入るように見て、いつかは海外に出てみたいという漠然とした考えをもっていましたが、なかなか行動に移せるような機会もありませんでした。しかし大学入学後、この最後の限られた学生の時間を有意義に使おうと決心し留学することを決めました。そして、なぜ数ある留学先の中からオーストラリアに決めたかというと、ずばり学生として学校に通いながらアルバイトをすることができるということです。以前より将来は海外で働いてみたいと考えていた私ですが、就活を直前に控えるこの期間に実際に海外での働き方を知ることで、本当に海外で生活をしていくのか、あるいは日本国内で生活をして休暇期間などを利用して海外を旅行客として楽しむのか、いずれにせよこの留学を経て自分にとって最適な将来のキャリアをデザインすることができればいいなと考えていました。

〔留学中の出来事〕

・学校での生活

私はマッコーリー大学の付属の語学学校に通っていたのですが、ここでは基本的に自分以外はオーストラリア国外出身でマッコーリー大学に正規入学する直前の生徒たちでアジア系の人が多かったのですが日本人は数少ないという印象です。また、授業内容は英語に関する授業だけではなく、大学でのプレゼンテーションの仕方や一般教養に関する内容のものもありました。そして、周りの生徒のレベルは高く、一緒に授業を受け大学の食堂でみんなでお昼ご飯を食べながら会話をするといった生活を共にするなかでかなり刺激を受けました。中でも衝撃を受けたのはほとんどのクラスメートが将来の大きな夢を持っていてそれを堂々と他の人に話している姿でした。日本にいる間は正直あまり将来のことについて深く考えるといったようなことがなかったので、周りのクラスメートたちが各々の大きな夢について語り合っている

光景を見て、自分自身でも気づかなかった胸の内にあったやってみたいことや目標が顕在化し、その想いを口に出せるようになりました。

・授業後や休日の過ごし方

授業後は大学の学食をみんなで食べて、食堂内にあるビリヤードを楽しんだり大学の図書館でみんなで宿題に取り組んだり、また近くのカフェでみんなでお互いの国や文化について語り合ったりしていました。休日はよく友人たちと夜ご飯に行っていて、オーストラリアは多民族国家なので町の至る所に様々な国のレストランがあるのですが、そこで自分たちの国のレストランをそれぞれ訪れ合い、互いの食文化について教えあいながら一緒に食事を楽しんでいました。また、長期休暇中はメルボルンを訪れてシドニーとのまちの雰囲気の違いを感じながら、日本出身ではない海外の友人と旅行することができたのは貴重な経験となりました。個人的にはシドニーの方がより規模の大きな都市で観光名所も数多くあるため留学するならシドニーを選んでよかったと感じました。

・アルバイトについて

冒頭でも触れましたが留学前から留学期間にアルバイトを探そうと考えていたので、オーストラリアでの生活に慣れ始めた渡航後約１ヶ月後から仕事を探し始めました。しかし、オーストラリアではバイト探しアプリのようなものはあるのですが、コロナ期間が終わり国外からの就労者が増えた影響でシドニーでは応募をしてもなかなか返事が返ってこず難航しました。そこでオーストラリア人の現地の人に相談したところ、履歴書を直接お店に配りに行くといった方法が主流だと聞きました。正直営業中のお店の従業員さんに直接自分を雇ってくれと英語で懇願することはかなり勇気のいることでしたが、その甲斐もありどうにか仕事を見つけることできました。採用してくれたお店は大学の横に位置する大型ショッピングモールの中にあるチェーンのスニーカーショップの販売店員でした。勤務を始めた当初は慣れない環境下で、商品のスニーカーについて理解すること、そしてその得た知識をお客さんに売り込むということは難易度の高いものでかなり苦戦しました。しかし、一緒に働いていた同僚の仲間はみんなとても親切で、様々な場面で英語の拙い私をフォローしてくれました。セール期間のとても忙しい日やお客さんとのトラブルが起きたりするなど苦しい経験もたくさんしましたが、苦労しながらも結果的には海外でも働けるという自信をつけることができて本当に貴重な体験ができました。

〔英語力の変化〕

私はこの留学をするにあたって、英語に関しては一貫してとにかくいろいろな人と話して、英語で自分の言いたいことをはっきりと相手に伝えられることを目標に努めていました。授業後は必ず友人のもとに駆け寄っていき、自分からコミュニケーションを図るようにしていました。オーストラリア渡航直後は人と会話しながら頭をフル回転させながら、自分が伝えたいこともいえず言葉に詰まり、そんな自分に嫌気がさしかなり苦い体験をしました。しかし、当然毎日が英語を日常的に使う環境なので、１～２ヶ月ほど経ち、慣れてくると自分の言いたいことが自然と口に出るようになりました。この時期頃からは話し相手の友人ともお互いの国が抱えている問題やプライベートの問題などより深い話題についても慎重に言葉を選びながら話すことができるようになったので本当に楽しかったです。中でも授業終わりに各々の国が抱える政治的な問題について話し合うようになってから、より国際的なニュースに関心を抱くようになり、自分の価値観・考え方がはっきり変わったと感じました。しかし、仲の良い友人とは毎日話していることもあり聞き慣れた英語なので対応できるのですが、オーストラリアは多民族国家であるが故に、英語話者のそれぞれのバックグラウンドに依存した独特の訛りがあるので、それの克服にはかなりの時間を費やしました。日本で英語を学習しているときはあくまで英語圏出身のネイティブの英語しか聞いてこなかった私にとって独特の訛りがある英語はほとんど新しい言語に出会うようなものでした。そこで私は家に帰宅し、寝る前にYouTube でノンネイティブの英語話者の話している動画を見ることを日課にしていました。そうすると、完璧とまではいきませんが、聞き取れる単語の数が増え、より聞き取りやすいようになりました。これからのグローバル化が進む現代において、様々な種類の英語に出会うことが考えられるのでただネイティブの話す英語だけにフォーカスしてはいけないということを身をもって体験することができました。

〔まとめ〕

この留学を通して、たくさんの人と出会い、多くの文化や慣習に触れ自分の価値観や視野が広がりました。本当に留学をするべきか迷っていた時期もありましたが、結果留学に行ってみて一つの後悔もありません。もし留学を考えている方がいるとすれば、チャンスがあれば迷わずとりあえずやってみるべきだと思います。以上で私の留学レポートを終えさせていただきます。